

授業科目名 (英文表記)	現代中国経済 (Contemporary China's Economy)		
単位数	1	授業形態	講義・演習
担当教員	金澤 孝彰		
開講	南紀熊野サテライト	区分	大学院
実施日・時間	第1回 12月17日(土) 13:00~17:00	第3回 1月7日(土) 13:00~17:00	
	第2回 12月24日(土) 13:00~17:00		

【授業のねらい・概要】

中国共産党第20回党大会以降の中国の国内経済および対外開放の展望と課題についてとりあげる。指定テキストの輪読・討論の他に、開講期間中に中国では毎年恒例の中央経済工作会議が開催される頃になるので、そこで決定される2023年の中国の経済方針もふまえながら中国経済の方向性を考察していくものとする。

【授業計画】

第1回①

ガイダンス、科目のカリキュラム上の位置づけの説明・授業方法の説明・成績評価方法の説明など
経済成長の過去と未来

第1回②

計画経済と市場経済
労働経済と農村経済

第2回①

第14次5カ年計画に関する内容検討(経済の視点から)

第2回②

双循環政策とは何か

第3回①

2022年12月中央経済工作会議に関する内容検討(第20回党大会についてもふれる)
中所得国から高所得国への移行

第3回②

まとめ、レポート指示

【到達目標】

履修することで、次のことができることが目標です。

- ・現在の中国の経済社会の根底を動かしているトレンドの存在について説明することができる。
- ・そのトレンドがどのような影響を与えるのかについて、議論することができる。
- ・今後生じるであろうトレンドについて、想像し、それに対してどのような対応が可能であるのかについて、議論することができる。

【成績評価の方法】

授業に入る前の学修(10%)、授業での議論(40%)、レポート(50%)

【教科書】

丸川知雄『現代中国経済 [新版]』有斐閣アルマ、2021年 **その他論文数点の予定**
科学技術振興機構アジア・太平洋研究センター『中国の双循環(二重循環)戦略と産業・技術政策ーアジアへの影響と対応ー』
(科学技術振興機構の公式サイトからダウンロード可)

【参考書・参考文献】

授業中に適宜紹介しますが、比較的新しい情報にアクセスすることになると思います。

【履修上の注意・メッセージ】

この授業は、その構成において議論を行う時間を予定しています。積極的な質疑応答を望みます。

【履修をする上で必要な事項】

南紀熊野サテライトでは対面で、それ以外の地域から参加する場合には同時配信で授業を行います。同時配信を受信する方法として、パソコンとTeamsアプリをダウンロードしておいてください。さらに質疑応答する場合に、ハウリングが生じないようにイヤホンをご準備ください。

【授業時間外学修についての指示】

授業の前に、見ておいてほしい資料等を提示することもあります。その場合、それに基づき説明と議論を行うこととなります。授業の最後には授業全体を振り返り、レポートを作成してもらいます。